

中津市中心市街地地区（1期）

（大分県中津市）

計 画 期 間 平成 17 年度～21 年度
 面 積 393ha
 交付対象事業費 2,964.1 百万円
 市人口 85,661 人（地区内人口 12,724 人）

ポイント 城下町の歴史と文化に触れる落ち着いた
 のあるまちづくり

地区概要 城下町の歴史と文化に触れられるまちづくりを
 目指し、歴史・文化と調和した公園・広場、道路等の
 整備により、地域の魅力を高め、都市の活性化を図
 る。

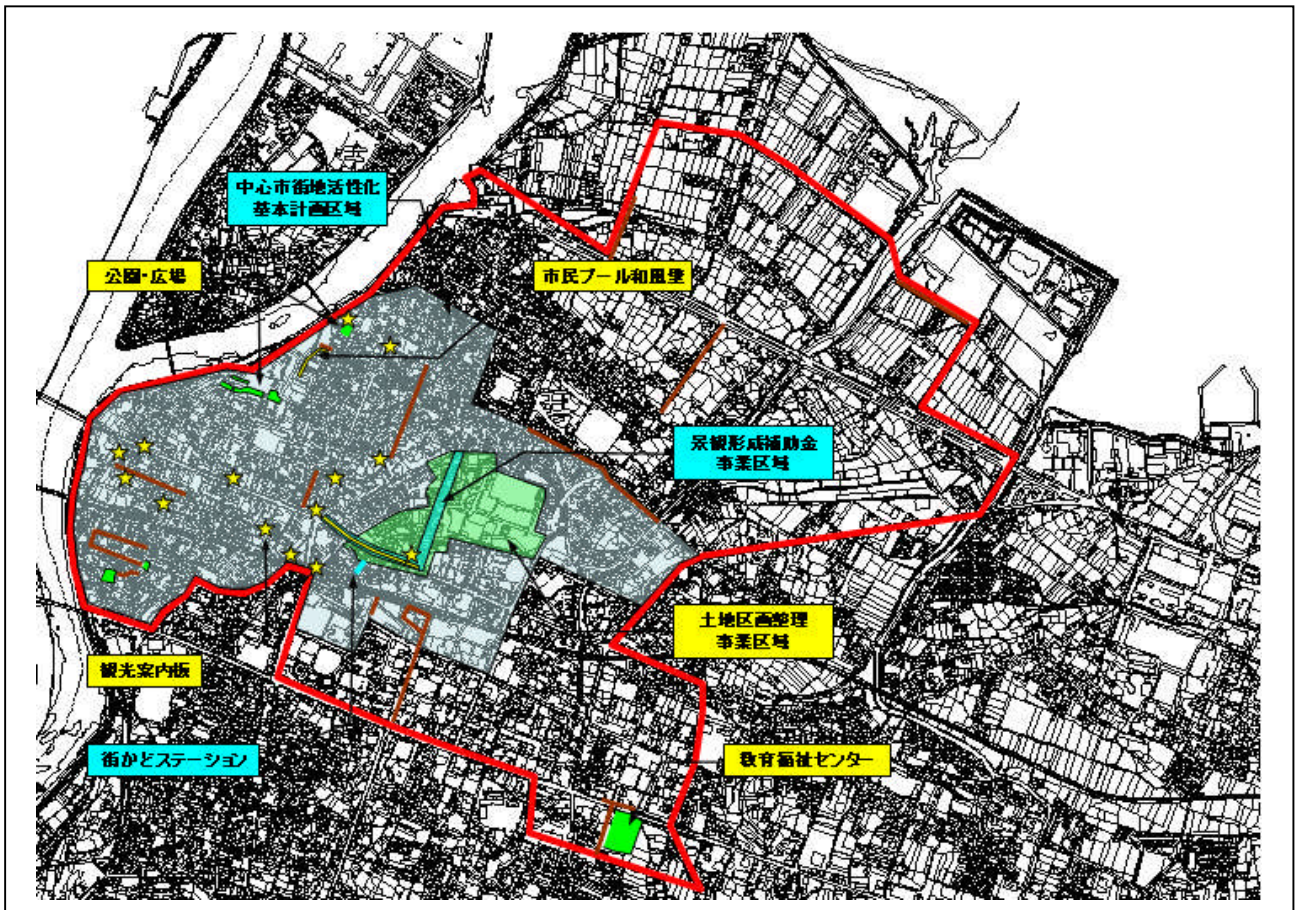
目 標 街なかまでの交通を円滑にするとともに区域内の回遊性を高める道路並びに、ふれあい・憩いの場と
 しての公園・広場の整備による市民・観光客の交流拠点の創造。

指 標 歴史・文化に触れるまちづくり、
 また回遊性を高める足回りのよい道
 路づくりにより、観光客、滞在時間
 の増加、また宿泊客の増加を目指す
 とともに、道路整備により地域住民
 等の満足度向上を目指します。

観光客数	350,000 (H15)	385,000 (H21)
宿泊客数	92,000 (H15)	100,000 (H21)
駅の乗降客数	620,000 (H15)	650,000 (H21)
道路環境満足度	-	3.0 (H21)

事業内容

- 基幹事業（2,321.4 百万円）
 - ・道路(15 路線、総延長 5,087m) ・公園(4 カ所、総面積 24,150 ㎡)
 - ・広場(3 カ所) ・観光案内板(14 カ所) ・地域防災施設(1 カ所、総面積 283 ㎡)
 - ・照明施設(7 路線) ・石畳(1 路線) ・教育福祉センター施設(1 カ所、1,117.61 ㎡)
 - ・土地区画整理事業(14.7ha)
- 提案事業（642.7 百万円）
 - ・景観形成補助金事業(30 件) ・下水道事業(90m) ・土地区画整理事業(14.7ha)
 - ・まちかどステーション建設事業(1 カ所、総面積 60 ㎡) ・景観保全事業計画策定
 事業 ・ 中心市街地活性化基本計画検討事業



地区の現況と課題

中津市の中心市街地地区は、城下町の町割を残す中津城周辺の界限と中津駅南北に形成された新たな市街地で構成されています。この地域の人口は、住宅地の郊外化により減少、高齢化が進んでおり、地域活動を支える活力が低下しつつあります。また大規模小売店の郊外立地が進み、旧来からにぎわっていた中津駅北から城下町に向けた商店街も人通りが減少し、空き店舗が目立ち始めています。

基幹事業の特徴

城下町を回遊する

中津市の各所の道路に和の雰囲気を持たせ、また観光地等には石畳を敷き、和の雰囲気漂う木製の案内板を設置、また地区住民とのふれあいが出来るように、交流広場・公園・センター施設を各所に設置いたしました。これにより、観光客の回遊性を高め、また地域住民とのふれあいを育てるようにし、観光滞在時間の増加、また宿泊客の増加を図ります。



和風の道路



まちかどステーション



木製の案内板

住民との交流の場教育福祉センター



中津市のシンボル
中津城

提案事業の特徴

城下町を再生する

2 地区の住民の方にご協力いただき、景観形成補助金事業を適用し道路の両脇に家を新築・改築する時に和風の家屋にしていただくようにしており、中津の城下町としての雰囲気を復活させ、より回遊する楽しみを持てるように景観作りをしています。

計画策定プロセス

地元住民と協議

平成16年に中心市街地活性化計画をベースに都市再生整備計画を策定。平成17年度に中心市街地活性化計画において効果の少なかった「活性化」に対して確実な効果を上げるため、各地区住民、NPO団体、地域活動団体との協議を重ね、住民の方の希望を取り込んだ中心市街地再活性化計画を策定。この計画を都市再生整備計画に反映することで、より住民の方の希望に沿い、より効果的な都市再生整備計画へと改善いたしました。



城下町の街なみを目指して



住民の方との協議会の様子